

地域一丸となつて事故防止

交通安全出動式／豊齢者交通安全大学開校式

春の全国交通安全運動期間（5月11日～20日）に合わせて、市内各地で朝の街頭指導や交通パトロールなどが実施され、ドライバーや歩行者に交通事故防止を呼び掛けました。

交通安全運動出動式は5月11日、市役所中田庁舎前で行われ、佐沼・登米警察署、管内の交通安全協会、指導隊、母の会などから約250人が参加しました。

布施市長は「これまで市内



パトカーや白バイなどが一斉に出動した出動式

で発生した交通死亡事故の多くは、高齢者や自転車によるものです。交通事故はちよつとした気の緩みによつて発生するので、この運動を通して多くの人たちに交通安全を呼び掛けてほしい」とあいさつしました。

その後、パトカーや白バイ、交通安全指導車が市内各地へ街頭指導に出発しました。

また、高齢者の交通死亡事故防止などに取り組む、地域



さぬま桜花大学であいさつする増子佐沼警察署長



石井登米警察署長から学生証の交付を受ける学生

リーダーの育成を目的に、「豊齢者交通安全大学」の開校式と入校式が10日、佐沼・登米警察署で行われました。

大学は、平成20年3月まで毎月2回、交通安全に関するカリキュラムを実施。署員や地域の交通安全団体の代表者らが「教授」となり、講義を行います。

名称は、佐沼署が「さぬま桜花大学（学生20人）」、登米署が「遠山豊齢者交通安全大学（学生11人）」。学生はそれぞれ増子総、石井修身両署長から学生証を受け取りました。

懐かしい味に若き日を重ね

登米で学校給食の歴史「特別展」と学校給食体験

学校給食の歴史を紹介する、学校給食の歴史「特別展」（株とよま振興公社、市歴史資料館主催）が、4月28日から5月27日まで旧登米高等尋常小学校（教育資料館）で開催されました。



年代別の給食レプリカなどが展示された特別展

会場には、明治22年、大正12年、昭和27、39、54年の年代別の給食レプリカや、献立の写真パネルを展示。学校給食の歴史を年表で紹介したパネルも設置され、おにぎりや塩ザケだけの質素な献立から、年々品数が増えていった給食の移り変わりなどが分かりました。



昔懐かしいメニューの学校給食を味わう参加者

また、2階にある再現教室では、昭和30年代の給食体験も実施。クジラの竜田揚げ、カレーシチュー、サラダ、コッペパン、牛乳（ミルク付き）の昔懐かしいメニューに、参加者は「とてもおいしかった。給食を食べながら若き日を思い出し、感極まる体験をしました」などと感想を話していました。

自慢の特産品が勢ぞろい

とめ・ふる里食財の日 市内でイベント

「とめ・ふる里食財の日（毎月第3日曜と直前の金曜、土曜の3日間）にちなみ、市内でイベントが開催されました。道の駅みなみかた「もっこりの里」では日曜日の5月20日、南方産もっこり和牛や



サクランボの種を飛ばし距離を競った「種飛ばし」

「もっこりにら」などの新鮮な野菜を販売。千円以上の買い物をした人に、野菜やもち、パン、漬物などが必ず当たる大抽選会も行われました。

また、地元で採れたサクランボの特売と「サクランボ釣り」。「サクランボの種飛ばし」を実施。種飛ばしでは、無料で振舞われたサクランボの種を勢よく飛ばし、その飛距離を競い合いました。



駅内ではサクランボ釣りが行われました

10歳50歳で優勝した小野寺正康さん（南方）には、賞品として2千円相当のサクランボとイチゴが贈られました。このほか、道の駅米山「ふる里センターY・Y」では、米山産の取りたてイチゴを使った生ジュースやソフトクリームなどが販売されました。

誰もが安心して通れる道に

津山柳津地区で春の交通安全総点検

歩行者の立場で道路を歩き、交通環境の現状把握や問題点を確認し合う「交通安全総点検」（国土交通省、県、市主催）が5月21日、津山老人福祉センターとその周辺道路で行われました。

点検には、小中学生や老人クラブ・交通安全団体員、学校・道路占用者関係者ら約80人が参加。2つのグループに分かれて、柳津地区の中心部を約1キロずつ歩き、歩道の段

差や破損などを確認する路線点検と、標識や横断歩道を点検する箇所点検を行いました。調査では、普段車や自転車で何気なく通る道でも実際に歩いてみると、歩道が急に狭くなったり段差があったりして、歩行者には歩きにくい場所のあることが判明。段差がある箇所では、実際に車いすや自転車に乗って点検も行いました。

参加者は、それぞれ点検

シートに問題のある場所を記入して確認の写真を撮影。その後、老人福祉センターに戻り、グループミーティングで点検結果を取りまとめ、代表者が発表しました。

点検に参加した高橋里奈さん（津山中3年）は、「歩道の段差や破損など危険箇所がたくさんあり、障害者や高齢者の人たちが通るには大変だと思います。早く直してもらいたい」と話していました。



車いすの車輪が歩道の側溝に落ちることが判明



道路標識の傾きを指摘する参加者



点検結果を取りまとめ今後の改善策を協議しました